

会 議 録

会議の名称	第1回さきたま古墳公園における子どもの遊び場事業構想検討委員会	
開催日時	令和8年1月14日（水） 開会：10時00分 ・ 閉会：12時10分	
開催場所	行田市役所305AB会議室	
出席者（委員）氏名	片口桂、澤田正樹、今井隆、萩原実、長岡幸雄、高島茂夫、青木恵美、須永裕香、安倍拓哉、西川晃充、入口早栄子、樽見由照、小巻政史、野中オブザーバー（代理：柳澤）、高橋オブザーバー、長島オブザーバー	
欠席者（委員）氏名	上野香葉子	
事務局	（健康福祉部長）熊谷、 （健康福祉部子ども未来課長）吉田、 （総合政策部秘書課主幹）代、 （健康福祉部子ども未来課主査）長島、 （健康福祉部子ども未来課主事）青木、 （総合政策部秘書課主任）滝田 （株式会社オリエンタルコンサルタンツ）青木、橋本、志村	
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状の交付</li> <li>3 挨拶</li> <li>4 自己紹介</li> <li>5 正副委員長の選出</li> <li>6 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本業務の背景・目的</li> <li>(2) 検討体制及び全体スケジュール</li> <li>(3) 市民意向調査の結果</li> <li>(4) 「子どもの遊び場」の整備事業基本構想（素案）</li> <li>(5) サウンディング調査の実施状況に関するご報告</li> <li>(6) ゾーニング（案）の検討</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>	
会議資料	（資料名・概要等） 第1回事業構想検討委員会次第 第1回事業構想検討委員会説明資料 さきたま古墳公園における「子どもの遊び場」の整備事業基本構想（素案）	
その他必要事項		
会議の確定録	確定年月日	主宰者氏名
	令和8年2月15日	片口桂

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	1 開会 2 委嘱状の交付【市長】 3 挨拶【市長】 4 自己紹介 5 正副委員長の選出【事務局】 6 議事【議事進行 片口委員長】
事務局	【事務局より議題（1）本業務の背景・目的の説明】
事務局	【事務局より議題（2）検討体制及び全体スケジュールの説明】
事務局	【事務局より議題（3）市民意向調査の結果の説明】
入口委員	市内でよく利用する子どもの遊び場で回答が最も多かった「市内の大規模公園」については、総合公園や総合公園内の遊具広場、古代の蓮の里の冒険遊び場などが想定されるが、その他のどの公園を利用しているのか回答はあったか。
事務局	本設問では選択肢回答のみで具体の公園まで把握していないが、想定されるのは総合公園や古代蓮の里、さきたま古墳公園などが挙げられる。
長岡委員	以前に自身が関わった小学生対象の公園ワークショップでは、トイレやアスレチックのようなアクティブな遊びができる遊具、水遊び場を導入することが意見として多く挙げられていた。子どもたちは「子ども同士がみんなで遊べる遊び場」を求めている。子どもたちの声も拾い上げながら、計画検討を進めてほしい。
事務局	長期にわたる事業となるため、今後、どの段階でどのような方法で意見を集約できるか、検討する。
事務局	【事務局より議題（4）「子どもの遊び場」の整備事業基本構想（素案）の説明】
澤田副委員長	本事業は、民間活力導入等により事業として成立させていくことが大前提となるため、市内の利用者だけでなく、市外の利用者まで誘客していくことが重要なポイントと考える。その一方で、市民意向調査については回答者が行田市民に偏っているため、別途、市外の利用者への情報発信や意見聴取をすべきと考える。
事務局	今回の調査は市民を対象とした意向調査という位置づけで実施している。埼玉県との連携は非常に重要になると考えているため、埼玉県と協議しながら進めていきたい。

樽見委員	本事業で整備する「子どもの遊び場」はどのような利用者層をターゲットとするのか。想定される利用者層や整備目的を明確にすべきと考える。さきたまテラスのように、ターゲットや目的が不明瞭で、整備後の効果が感じられないような施設にはならないようにすべきである。
事務局	メインターゲットは行田市民となるが、市内外に限らず、県外も含めた利用者層をターゲットとし、遊び場とそれに付随する諸施設を含め、多くの方に利用いただける公園にしたいと考えている。ご指摘の通り、整備後の効果等も見据えて検討を行い、市内外に関わらず多くの方々に利用される施設を目指していきたい。
事務局	本事業における利用者ターゲットは、主に行田市民を想定しているが、県立公園であることから市外の利用者の来訪も想定している。また、子どもや親子に限らず多世代の市民に利用してもらえる空間としていくことを目指している。想定される利用者の居住地や年代については、導入する機能やゾーニングと合わせて整理し、基本構想の作成を進める。
樽見委員	近年の異常気象を踏まえると、ターゲット層に寄らず全天候型の遊び場は必須であると考え。ただし、行田市民をターゲットとする場合は大規模な施設は不要と考えるが、県外からの来訪者や多世代の利用者を想定するとそれを許容できる規模の施設が必要となり、ターゲットによって施設規模が異なるため、ターゲットは明確にすべきと考える。
澤田副委員長	市民が気軽に利用できる公園としたうえで、行田市の魅力が発信され、市外からの利用者も来訪していくための施設として整備していくことを目指すことが望ましい。
澤田副委員長	ゾーニングについて、駐車場の配置場所は3案のゾーニングが望ましいが、交通渋滞による近隣住民への影響を考慮し、交通量の推計や駐車場の詳細について、追加検討が必要となると考える。
事務局	ゾーニングについては現時点での案となるため、サウンディング調査における民間事業者からの意見を踏まえて、駐車場の配置や規模、動線など詳細を検討していきたいと考えている。
西川委員	本委員会の委員として、どこまで権限があるのか確認させてほしい。今回資料として提示されている素案に対して、委員会での意見はどのように反映されるのか。また、計画策定までの流れを確認したい。
事務局	設置要綱に記載の通り、公園内に整備される「子どもの遊び場」に関する計画についてご意見を伺うということが本委員会の位置づけである。委員会の中では、子どもの遊び場の計画として、ゾーニングやどのような機能が必要かを議論させていた

	<p>だき、いただいたご意見については計画に反映したいと考えている。また、遊び場の計画に限らず、市外・県外からの誘客等の方策についてもご意見を伺いたいと考えている。</p>
高島委員	<p>各市町村から大型バスで小学生等が博物館等に来訪しているという現状もある。本遊び場の整備により魅力が向上し、公園への来訪が増加することが見込まれる。さきたまテラスについて、地産のものが販売されている点はとても良いが、来訪者の期待に反する施設規模や物販になってしまっているため、本事業の実施により公園全体の魅力を向上していくことが重要となる。また、事業に関する情報発信や整備後のPR、周辺への効果の波及（経済的に）も見据えて計画を作成してほしい。</p>
事務局	<p>博物館やさきたまテラス等の既存施設との連携による回遊性については重要なポイントとなる。市内の利用者が気軽に利用でき、市外・県外からの利用者の期待に応えられる施設を目指し、何度でも来たくくなるような公園・施設の整備が必要であると考えている。</p>
片口委員長	<p>まずは、市民をメインターゲットとし、市内利用者が満足できる施設とすることが大前提となる。市内利用者の満足度が高い施設となれば、市外・県外へと波及し来訪のきっかけになると考えるため、委員会の中で行田市の思いを共有しながら議論していきたい。</p> <p>【事務局より議題（5）サウンディング調査の実施状況に関するご報告】</p>
澤田副委員長	<p>現時点で、調査応募は何件となっているか。</p>
事務局	<p>現状、約20事業者から申込をいただいている。事業全体をマネジメントする企業や遊具等のメーカー企業など、さまざまな事業者から関心を寄せていただいている。</p>
小巻委員	<p>サウンディング調査を踏まえ、事業の進め方が決定することとなるが、市としての方針は現時点であるか。</p>
事務局	<p>市としては、民間活力（PPP/PFI）を導入して整備を進めたいと考えているが、事業として成立させていくために民間事業者と密にコミュニケーションをとりながら意向を伺い、事業の進め方を検討していきたい。</p> <p>【事務局より議題（6）ゾーニング（案）の検討の説明】</p>
須永委員	<p>移動のしやすさの観点から、乳幼児が遊ぶ空間は駐車場から近接する配置としてほしい。また、安心して安全に遊べる環境とするため、子どもの居場所ゾーンの中でも、発育段階に応じたゾーン分けをしてほしい。</p>

入口委員	未就学児や小学校低学年等は、施設内の利用ルールや安全上のルールの理解が未熟であることを踏まえると、安全に、安心して過ごせる空間とするためには、遊び場を駐車場から離れた場所に配置すべきと考える。
事務局	立場によって多様な考え方があるため、どの観点を優先していくかを今後整理しながら検討していく。
樽見委員	駐車場について、現時点で台数は想定しているか。
事務局	今後実施するサウンディング調査において、民間事業者へのヒアリングを行い、その結果を踏まえて必要となる台数の算定を行っていくため、現時点で駐車台数は算出していない。
萩原委員	施設整備により、校外学習や観光等、大型バスでの来訪も増加することが想定されている。今回整備を予定している駐車場には、大型バスの駐車も許容するのか。
事務局	大型バスの駐車場については、既存の南側の駐車場を活用することなどを検討している。
樽見委員	本事業の事業対象地の規模は確定しているのか。
事務局	本事業は「古代の森・草原エリア」を対象地とし、その規模は約4haである。対象地の範囲の中でゾーニングや導入する機能を検討していく。
萩原委員	南側の芝生広場から遊び場へ移動する際には、現在の園内の遊歩道に整備された水路上の橋を利用することが想定されるが、幅員が狭く、利用者が増加すると許容できない可能性があると考ええる。
事務局	公園内の回遊性については、南側との関係性を踏まえて、今後詳細を検討する。
今井委員	現状の利用状況を踏まえると、利用者が増加するほどの場所になるか懸念される。以前は、年間約60万人の利用があったが、現在は約12万人と減少している。また、春には桜の名所として有名であったが、現在は桜も減少してしまっている状況で、復活させてほしいという思いもある。さらに、さきたまテラスは規模が小さいという意見もあるが、さきたま古墳公園の利用状況を踏まえると適切な規模であるとも考えられる。既存の施設の利用状況や地元住民の意見も考慮して計画を検討してほしい。
事務局	今後の計画検討において、現在の利用状況や地元住民の意見にも配慮しながら実施する。
西川委員	ゾーニング案について、B・C案は遊び場と駐車場が隣接してい

	<p>るため、駐車場と居場所ゾーンの境界の安全性を担保する整備が必要であるが、安全性が担保できない場合にはA案となる。様々な立場の委員がいるため、意見が衝突した場合に何を優先すべきかを明確にすべきである。</p>
事務局	<p>子どもの遊び場であるため、安全であることが最優先で考慮すべき事項と考える。</p>
西川委員	<p>高額な遊具を配置している遊び場の事例も多く見られるが、民間企業が無料で開放している遊び場を設置することで社会貢献活動をしている事例もあるため、金額をかけすぎず、無駄なく整備できる方策も模索してほしい。</p>
事務局	<p>サウンディング調査の結果を踏まえての検討となるが、民間活力を活用し、飲食施設等収益性のある施設の導入など、行政で負担する費用を可能な限り抑えられる方法を模索したいと考えている。</p> <p>【事務局より議題（7）その他】</p>
柳澤氏	<p>本事業で整備する子どもの遊び場について、埼玉県が管理する公園ということ为前提に、公園を活用し、遊び場整備を行田市が検討しているという建付けとなっている。埼玉県としては、「子どもの遊び場」を整備することが大きな目的となるため、飲食施設等の収益施設が主体となるような整備とならないように留意してほしい。公園の使用については、埼玉県に行田市から使用料を支払う必要があり、収益に応じた金額設定等も考慮して行田市との協議・調整が必要となる点をご理解いただきたい。</p>
樽見委員	<p>事業スキーム、サウンディング調査、PPP/PFIなど、専門用語が多く理解できない部分がある。</p>
事務局	<p>それぞれの概要は以下の通りである。  PPP/PFI：民間企業の資金やノウハウを活用して事業を成立させる手法の総称。  サウンディング調査：民間企業を対象に実施するヒアリングや対話。  事業スキーム：本事業で誰がどのような役割分担でどのように進めるかを整理した事業全体の枠組みのこと。</p>
片口委員長 澤田副委員長	<p>説明資料や基本構想（素案）について、専門用語が多くわかりづらいため、注釈や図表を追加するなどわかりやすくなる工夫をすること。</p>
樽見委員	<p>資料の年号表記について、和暦と西暦を併記する形式とすることで、市民は理解しやすくなる。</p>
事務局	<p>今後、提示資料の年号表記は和暦と西暦を併記する。</p>

4 閉会